

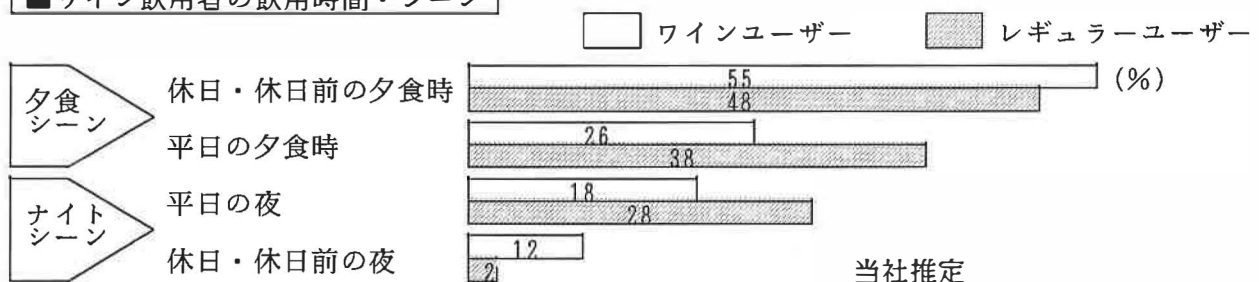
## 国産『準低価格ワイン』に求められること

※当社保有のデータベースより、赤ワインブーム直前の'97年春夏のワインユーザーの実状をチェックしてみました。

### 食事と一緒に飲むからデイリーユースのテーブルワイン

お酒にはいろいろな楽しみ方がありますが、他のアルコールに比べ、圧倒的に食卓で食事とともに飲まれているのがワインです。ワイン飲用が活性している日常ユーザー層は、一般のワインユーザーに比べ、平日の夕食…つまり、毎日の食卓でワインを飲む率がぐっと高くなっています。つまり料理と合うワインであることが最も大切なのです。

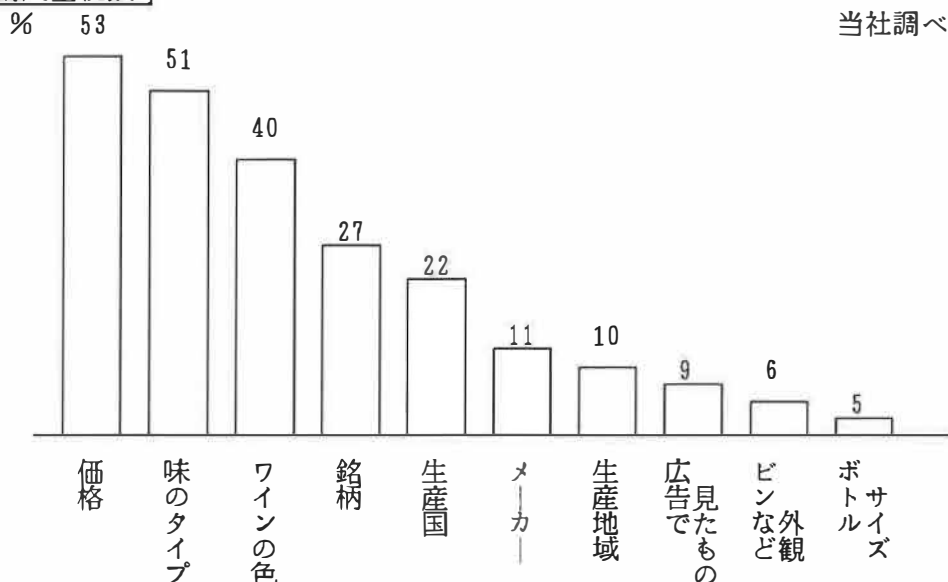
#### ■ワイン飲用者の飲用時間・シーン



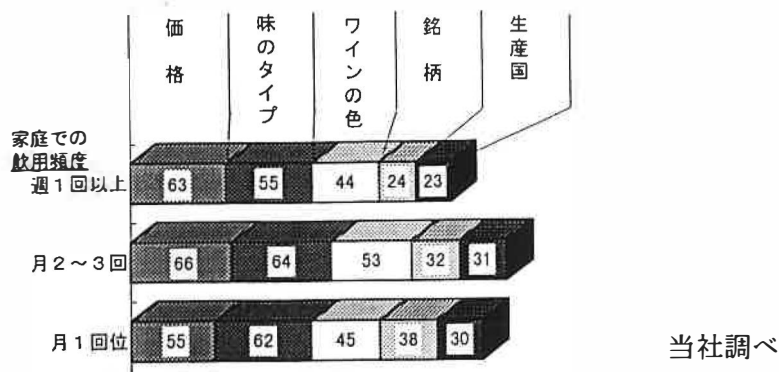
### こだわりは味のタイプとワインの色

健康ワインブームで、ワインの色がとりだたされる今日ですが、本来のワインユーザーにとって重要なのは、むしろ味のタイプです。ワイン選びの要素については、高価格ユーザーや輸入ワインに比べこだわりは弱いものの、チェックする内容は同様で、ワインユーザー全般について言えることでもあります。

#### ■購入重視点



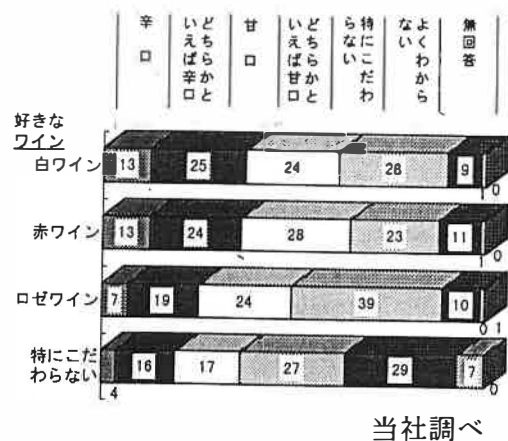
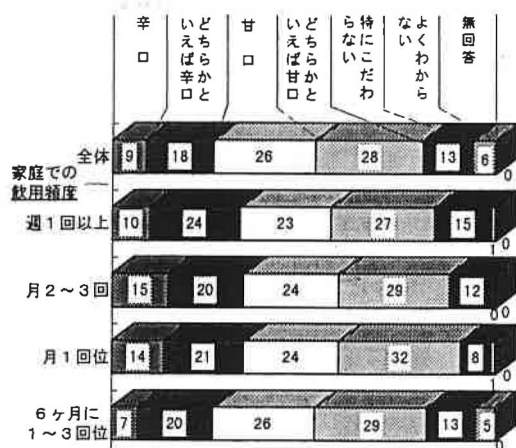
■飲用頻度別購入重視点 ※週1回以上ユーザー＝日常ユーザー



国内ワインユーザーの嗜好－甘口：辛口は3：1

日本人は、全体的に甘口系のワインを好む傾向があり、また、当社国産ワインブランドであるポレールの「うれしいワイン」シリーズでも甘味のバランスに配慮したブレンドを行った豊富な品揃えが好評です。

■最も好きなワインの味



さっぱりとした日本の食卓には、白ワイン。今後は？

ワイン業界では、健康ワインブーム以降、好んで赤ワインを選ぶ人が増えたため、現在では、ほぼ同量飲まれている…との見方をしています。ブーム直前のデータでは、白ワインを指向する人が多く、本来、日本の食材や料理に飲みやすい白ワインが好まれる傾向が強くありました。今後は、赤ワインに慣れ親しんだユーザーがどのように赤ワインを食卓に取り込んでいくかという点にも注目。ユーザーをリードしていく必要があるでしょう。

■好きなワイン

